

■ 北海道情報大学学内報



(釧路湿原にて)

● 目 次 ●

新年を迎えて 学長 三枝武男……………	2	第10回蒼天祭……………	6～7
人・CLOSE-UP Vol. 2		主要行事……………	8
教養課程教授 金澤 甫…	3	平成10年度防災訓練……………	8
ゼミナールちょっと拝見……………	4	編集後記……………	8
CLUB自慢……………	5		

発行・北海道情報大学  
 〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



## 新年を迎えて

学 長 <sup>さ</sup>え <sup>ぐ</sup>さ <sup>た</sup>け <sup>お</sup>男  
三 枝 武 男

新年明けましておめでとうございます。

昨年は開学10周年という本学にとって一区切りの年で、本学法人の電子開発グループの開基30周年本学の10周年記念行事を予定して居りましたが、その直前に本学創始者の故松尾三郎前理事長のご逝去という不幸に出会いまして、東京で合同葬、本学で学園葬を実施した事は本学学内報特別号(第10号)に報知された通りであります。本年6月頃更めて延期になりました記念式典を実施する予定になっております。

松尾泰新理事長が発令され本学も新たな体制で躍進せねばなりません。

本学は約30年前から開設された電子計算機専門学校をベースに電子開発グループの一貫として平成元年開学され、今年3月には通学課程で6期生を通信教育部と大学院研究科で夫々2期生を送り出すべく、目下後期試験やゼミ・卒研の成果収録期に入っております。

就職についても昨年度までの高率が続き今回も他校に比べ高率の内定率で推移しております。特に学年で1,000人余りの通信教育部は関係皆様のご尽力により他の通信教育に例を見ない高率で、しかも殆ど4年間で卒業という成果を納めています。

通学、通信教育課程合せ本学は5,000名を越える学生が勉学に励み、特異な存在として認識される様になってきたと思います。

昨年7月中に松尾記念館が完成し、講堂・図書館・コンピュータセンタ等の活用により本学の活動機能が可成り改善され、今後の発展が期待されます。

平成4年からのバブル崩壊に直面し、少子化の進む現況では教職員・学生一体となって本学の発展に力を結集して行く事が望まれます。

昨年は入試制度の改革、学部増設問題、カリキュ

ラム改正、国際交流センタ利用問題、国際交流、自己点検評価問題、共同研究問題、防災訓練、ホームページ、大学院関連問題、学校法人実態調査、教職課程導入問題等の諸問題を次々に検討を進め、更に充実度を増す様努力を続けています。

特に学部増設や国際交流については次の発展のため力を合せて進める必要があります。

松尾三郎前理事長が顧問教授であった南京大学とは既に共同研究も実施しておりますが、教員交換教授、学生の交互留学、単位互換等本格的交流の準備を進めており、以後欧米、アジア、オセアニア諸島との交流を進めるべく、既に南京大学、モンクット王工科大学(タイ)と本学を結ぶ衛星通信教育として国際的教育ネットワークシステムの実験は約2年をかけて放送通信機構(TAO)を通じて実施済みで成果を得ております。

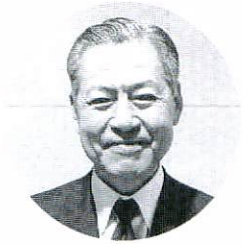
本学の先駆的教育システム等を活かし、国際的に期待される大学への発展が望まれます。

大学審議会は「21世紀の大学像と今後の改革方策について：競争的環境の中で個性が輝く大学」(答申)を「21世紀初頭の社会状況と大学像」「大学の個性化を目指す改革方策」としてまとめ、文部大臣に提出しました。

また、小・中・高校教育に対する新学習要領案もまとまり、我国の教育改革が新たに進展しようとしております。

情報系コンピュータ関連教育もパソコンの普及・インターネットの拡張等で改革の時期に来ております。高校以下の教育と大学との接点の見直しを含め、今後の教育に教職員・学生共協力して対峙して行かねばなりません。

本学の存在価値を再確認し、お互に自信を持って来る21世紀をリードし得る発展を遂げる事を願い、新年のご挨拶と致します。



HITO

# 人・CLOSE-UP

VOL. 2

## 『背後の森』

教養課程教授 かな 金 さわ 澤 はじめ 甫

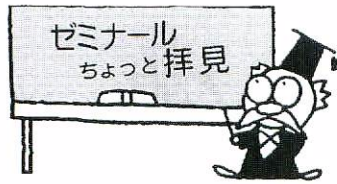
このキャンパスのウラの広い森。「ウラとはけしからん。ワシの北へりに学校があるのじゃ」と森は言っているでしょう。高速バスを降りてまず感じるのは、乗った所にはない新鮮な空気。そしてこなれてはいないがさわやかな風。あの森が運んでくれていると心地よさを覚えつつキャンパスへと向かいます。

この森と私の付き合いも永くなりました。半世紀前、野幌駅への切符を購入するために札幌駅で長時間の行列待ちに耐えねばならなかった時もあったということも、いまや夢物語になりました。40年前、野幌駅の南の大きな(?)通りを札幌方向へしばらく戻り、左折して上り勾配の道を進んで森の入口へ向かいました。いまの商店街・住宅街からは、当時歩いた道筋が分かりませんし、調べる気にもなりません。あの頃は、ときにゴム長靴でドタバタと歩いて行っても、若かったせいもあってかさして違和感がなかったような町並だったと思います。30年前、森は道立自然公園となり、高い塔が建ちました。池が整備され、憩える広場が作られて人と付き合いやすくなりました。20年前、すでに森の前までバスが通っていて、アクセスが楽になり、訪れる人も多くなっていました。小学生の息子と自転車で来たこともありました。縦横に幅広い道や小径がめぐらされ、それを歩きなれると森が狭くなったような感じもしましたが、その昔、小径から外れて、起伏ある茂みを分けて歩き回り、「はて、どこらあたりに立っているのかな」と緊張したこともありました。森は深いです。ここに研究室が与えられた時に、いつでも森に入れると定石通りに張り切りましたが、やはり「紺屋の白袴」になってしまいました。数か月前の9月の日曜日、学校へ来たついでに道々江別恵庭線の方から入りました。いや、久しぶりに入れました。車の通り抜けは善し悪しとして、車を降りての数十分の散策でも、けっこう懐かしいものでした。

この森に雪解け早々から晩秋まで春夏秋と訪れると、折々の楽しみがあり、季節の移ろいが実感できます。また同じ頃でも年を重ねて訪れるといろいろの意味で再発見がありましょう。トドマツをはじめとする樹木の葉の緑や鳥のさえずりもさることながら、下草の植物がどんどん咲き変わります。黄色いエゾノリュウキンカ、白いミズバショウからはじまって、スマレの仲間、ニリンソウ、オドリコソウ、夏のひときわ大きいオオウバウリ、ピンクのヤナギラン。秋風とともにエゾトリカブトやキク科のエゾゴマナなどなど、咲いてはお次と交替するように訪問者を楽しませます。春の暗褐色のザゼンソウや秋の紫色が冴えるツルリンドウも眼に浮かびます。

そして静寂の散策路をゆっくりと歩く森林浴。日く言い難しの冷気と芳香にも科学の探求が進んでいます。植物が作った生活のための必要物質が、害虫に襲われた場合、周囲へそれを知らせる情報伝達物質となるとともに虫から身を守る物質となるようすし、ある種の昆虫には種々の生活情報になっているようす。ヒトに心地よさを与える実体も調べられてきました。それにしても、健康に良いから森に入るといふよりも、森の動植物と友となるべく行きましょう。

このキャンパスもいにしえは森のど真ん中であつたはずす。今でも名残りがあつます。私と付き合いの深いオオバナノエンレイソウは昔日の栄華の誇りを保つて白い花を開いていますし、「因幡の白兎」にあるガマも穂を立てています。キツリフネも黄色い花をぶらぶらさせています。そして松尾記念館の前には、青年期のエゾマツとトドマツがわれらが希望の象徴のように高さを競っています。「松の緑」は祝う・ことほぐを連想させるというところで、春を待つ雑感とする次第です。



### 坂上ゼミナール

3年 石川・上山

我等が坂上ゼミは、3年生が10名、4年生が12名の計22名です。全員男子学生なので非常にむさ苦しい……いや男気に富んだゼミです。当ゼミではファジィ理論を用いた、曖昧な条件に対するシステムの運転制御シミュレーションの方法論を学んでおります。

ゼミの流れとしては、最初教室でファジィ理論の仕組みなどを学び、その後コンピュータにプログラムを打ち込むといった感じです。前半の教室では、まず坂上先生のありがたいお話から始まります。内容は様々ですが、どのお話もこれから社会に出ていく身としては、どれも役に立つものばかりで本当に助かります。しかし、話に熱中すぎて時間の3分の1を消費してしまい慌てることもありました。後半のプログラムの方は、苦手な者には得意な者が助け船を出したりして楽しくやっております。

普段はこのような感じで勉学を進めている我々ですが、ゼミコンパが年に数回あり、その時は楽しい時間を皆で過ごします。5月にあったコンパの支払いは、どう考えても補助金の範囲を越えており、その分は誰が出したのか今でも謎です。とりあえず坂上先生と先輩方に感謝であります。

このように心優しい坂上先生と先輩たちがいる坂上ゼミですが、唯一の欠点は、教室の場所が通信棟なので冬場は移動の際寒いと言ったところでしょうか。しかし、そんなことが気にならないほど楽しいゼミです。



### 久野ゼミナール

3年 齋藤 慶介

久野ゼミは4年生9人、3年生7人、大学院生5人で構成されています。

私達は「会計」をより深く知るために、前期は久野光朗編著『簿記論講義』(同文館、1998)を用いて複式簿記を、そして今は伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』(日本経済新聞社、1998)を用いて現代の企業会計についてみんなで学んでいます。

会計の応用ということで、とても難しく、なかなか理解できないためか、みんな受け身だったのが、自主的に取り組むようになり、最初は緊張して張りつめた雰囲気もいつのまにかなくなってみんなリラックスし、ときには笑いも起こるようになりました。

4年生は今、卒論のまとめに入っているようです。そしてゼミではその卒論の経過を毎回発表し、それについて討論する形をとっています。

久野先生は非常に熱心で厳しく、少しのミスも逃さず指摘してくれます。又、随所に補足説明をしてくれ、より分かりやすいものにしてくれます。

ゼミというのは深く交流のできる場だと思っています。これからもみんなで一生懸命学んでいこうと思います。





## 卓球部

主将 白川 敬士

こんにちは、卓球部です。

いつのまにかこの部活も20人ほどの大所帯になってしまいました。ただ、いつも練習に参加しているのが2~3人というのはどういうことでしょうか……。

ますます羽球部に頭が上がりなくなる今日この頃です。ごめんね北市君。

春はちゃんと集まってたんですが最近は特に少ないです。これを読んでもる部員(特に1年)は練

習に参加するように。

試合の成績もいまいっぽとせず更には前代未聞の大会集団エスケープ(某1年数人)もあり、何度主将職を辞するか考えました。

一体、どのくらいの登録費&参加費が無駄になったやら、決算が思いやられます。

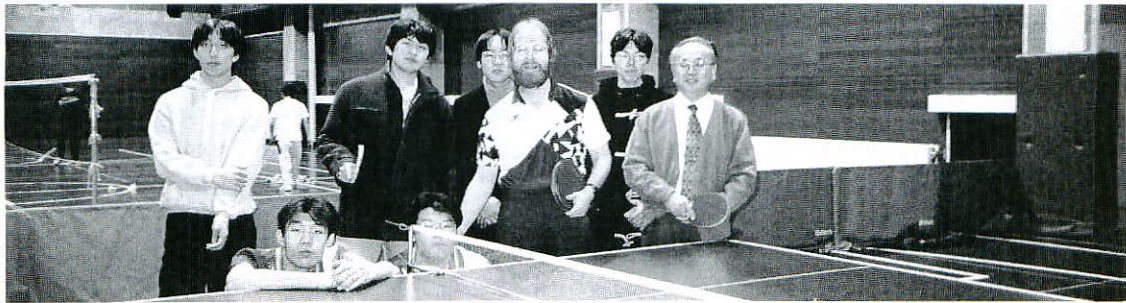
このままでは、いつか顧問の前田教授が高血圧で倒れたり、チャールズ講師が母国へ帰ると言い出さないかとマジで心配する今日この頃です。

皆さんはご存知ないかと思いますがこのお二方はホントにつよい。この辺の大学生で勝てる選手がいないほどです。決して名ばかりの顧問ではありませんので、名誉のため。

今の3、4年生が抜けると戦力が少し下がりが心配ですが、2年生を2度やってる元同級生がいるので、頑張っって欲しいものです。

では最後に、成田君、あとは頼んだよ、小林君、成田君の世話、ちゃんとするんだよ。

迷わず行けよ、行けばわかるさ!



## 柔道部

前部長 3 D 1

北田 竜昌

我等柔道部は毎週水曜日の六時位から練習しているはずなんですけど、部員が少ない上集まりが

悪くて筋トレだけで終わる日が多いです。

そのせいで年三、四回の試合でも体が鈍っているのを痛感しまくりです。

又、二年生以下の部員が現部長一人というのがものすご〜〜〜痛いわけで、新入部員大募集中ですので入部したい人は顧問の玉置助教授の所に行っして下さい。

なんか恥な事ばかり書いてるけど、そうでないことと言えば……そうそう、体育祭と学祭では模擬店を出してビールとかを売っています。

特に体育祭では他に店を出すところはないので、毎年大好評です。

あと、筋トレだけで練習が終わらない日は、軽く受け身の練習をしてから技の練習をして、他には試合形式の練習をするときもあります。

まあ、そんな感じでぼちぼち楽しくやっております。それでは(〜)〆



# 第10回 蒼天祭特集

DATE 1998.10.9~10.11  
(FRI) (SUN)

## 〈今年の蒼天祭について〉

実行委員長 藤川 正也

今年は、北海道情報大学創立10周年にあたり、また本学園の大学祭「蒼天祭」も第10回という節目の年を迎えまして、大学祭実行委員一同、蒼天祭のことを多くの人たちに知ってもらおうと積極的にTV出演したり、「大学祭パンフレットコンテスト」という企画にもエントリーし、今年のパンフレットの表紙を全国誌に掲載したりと、より一層の力を入れて頑張りました。

今年の蒼天祭テーマ「蒼天祭だよ全員集合!!」は本校の学生はもちろん一般のみなさまにも蒼天祭に一人でも多くの参加をしてもらいたいと思い、このテーマに決定したのですが、一般参加を予定していた10月10日・11日の2日間とも、我々実行委員の予想を大きく上回る数の学生ならびに一般のみなさまが蒼天祭に足を運んで下さいました。中でも、より多くのお客様を集めたイベントは、今や女子中高生を中心に多くの若者からの人気を集め、テレビ・雑誌はもちろん、最近ではCDデビューもするなど幅広い活躍をしている人気お笑いタレント「ネプチューン」のトークライブでした。(このライブの会場は今年の7月に完成したばかりの松尾記念館・大講堂を使用させて頂きました。)ネプチューンを呼ぶにあたっては、いろいろな苦労があり、期待と不安でいっぱいでしたが、いざ蓋をあけてみると、ライブ前日からお客様が列をつくってならぶほどの盛り上がりで、当日の会場は今までの苦労や不安がとんでいってしまうほどの熱気に包まれ、大成功に終わりました。また、模擬店や有志バンドライブもネプチューンライブの効果が、大盛況でした。

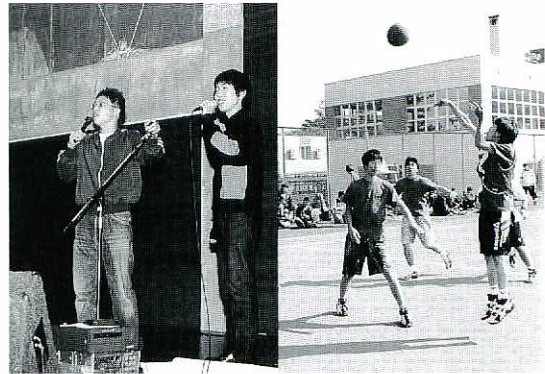
来年の蒼天祭は第11回をかぞえ、また新たな一歩を踏み出すこととなります。来年の実行委員には今年の経験、反省を生かし、今年以上に規模を大きくして、より盛大な蒼天祭を築いていってほしいと思います。

最後に、第10回蒼天祭にご協力頂いた皆さん、参加して下さいました方、本当にありがとうございました。

## 《前・後夜祭》

前夜祭では、テレビの「笑っていいとも」で行なわれているつながりクイズをやり、女の子どうして接戦をくり広げました。後夜祭では、毎年恒例のコーラー一気飲みを行ない、学外の人達も参加して盛り上がりました。

前後夜祭通して行なわれたカラオケでは、委員長自らがkinki-kidsを完全にパクってアンコールもおこるほどの盛況ぶりでした。



## 《3 on 3》

今年の3 on 3は去年に続いて二度目となりました。街頭でビラ配りやポスター貼りなどの努力の結果、去年よりも多くのチームが集められ、又、飛び入りのチームもいるなど、白熱した試合が見られました。

当日は、そんな努力が実り快晴の中行うことができました。試合中のBGMにもこだわり、NorthWaveのDJなども招くこともでき、参加者は外国人の方から色々な大会で好成績をおさめられている方など様々な人達が来られました。途中の昼食タイムにはフリースロー大会が一般参加で行われ賞品をかけて小さな子供たちも参加してもらいました。大会も後半にさしかかるとさすがにうまい選手たちばかりで、ちょっとしたミスが大きな点数につながったり、ナイスプレーが連発したりととても白熱したゲームでした。

そんな中、多少のハプニングもありましたが、無事終わることができ、選手の皆様にも喜んで頂くことができました。

### 《模擬店》

10月10日、11日の二日間に渡って出店された模擬店は、学生有志による出店が多く、ネプチューンライブや3 on 3 バスケットボール大会の効果もあり大盛況に終わりました。数こそ多少少なかつたもののお好み焼きや綿あめなどお祭りの定番商品の出店が多く、大学祭の雰囲気を出す事に一役かったようです。

模擬店は大学祭の雰囲気をつくる重要な位置を占めており、学生の自主活動の一つです。活動を通して得られる経験は将来に役立つ物だと考えます。来年以降、多くの学生が参加できるように環境をよくしていきたいと思っておりますのでぜひ参加をしてもらえれば幸いです。



### 《有志バンド》



有志バンドは軽音楽部を中心に行いました。また、舞台設営や照明等も担当して頂き、P A (音響) は今年も親交のある業者の方に依頼し、力を貸して頂きました。今年もいろいろなジャンルのバンドが集まり、それぞれがこの日の為に日頃から練習してきた曲を演奏し、激しく熱いパフォーマンスのステージとなりました。スタッフ・バンドの人々や聴衆、みんなが楽しい時間を過ごせたと思います。

また、軽音楽部にはネプチューンライブの際に警備員として実行委員の仕事を手伝って頂き、とても助かりました。

ありがとうございました。

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

☆ 法人本部 ☆

◇事務職員人事◇

平成10年11月30日付 退職

職員 奈良 純子

◆◆ 10月～12月主要行事 ◆◆

☆ 大 学 ☆

10月16日(金) 教授会 12月11日(金) 教授会

11月13日(金) 教授会 28日(月) 仕事納め

☆ 法 人 ☆

11月19日(木) 文部省学校法人運営調査委員実地調査

☆ 通信教育部 ☆

〈後期地方スクーリング〉

〈後期レポート提出〉

10月23日(金) 全 国 11月20日(金) 札幌・名古屋

～25日(日) ～22日(日) ・広島

24日(土) 27日(金) 名古屋

～26日(月) 大 阪 ～29日(日) ・千葉

30日(金) 札幌・新潟・ 12月4日(金)

～11月1日(日) 北九州・静岡 ～6日(日) 大 分

11月13日(金) 全 国 21日(月) 名古屋

～15日(日) ～23日(水)

14日(土) 北九州

～16日(日)

11月1日(月)～8日(月)

〈後期放送授業科目試験〉

12月14日(月)～18日(金)

〈第3回入学選考〉

12月18日(金)

◆◆ 広報活動 ◆◆

\* 高校訪問 \*

秋田県(10/20～10/22) 青森県(10/26～10/30)

福島県(11/3～11/7) 宮城県(11/9～11/13)

山形県(11/24～11/27) 岩手県(12/1～12/5)

\* 北海道情報大学・北海道電子計算機専門学校

合同入試説明会 \*

函館会場(10/23) 帯広会場(10/26) 釧路会場(10/27)

北見会場(10/28) 旭川会場(10/29)

\* 高校内ガイダンス \*

札幌啓成高校(10/29)

\* テレビ等 \*

10/16～10/末 札幌大通り4丁目プラザ壁面

MEGAビジョン掲出

12/1～12/末 札幌地下街4面マルチビジョン

HILOSHI掲出

12/15～12/31 HTBテレビにてCM放映(15秒)

◆◆ 主な来校者 ◆◆

10月30日(金) 札幌東公共職業安定所

葛西雇用指導官 他1名

11月16日(月) 倉成正和代議士 他2名

12月16日(水) 南京郵電学院 張孝強副院長 他1名

◀ 平成10年度防災訓練実施 ▶



◆ 日 時 11月6日(金)

石狩管内に震度6強の直下型地震が直撃、2次災害として、厚生棟1階ポイラー室から火災が発生したという想定で避難訓練を実施した。初めての訓練だったが皆、手際よく対応していた。

計 報

本学教授大坂本富氏は、平成十年十二月七日、食道癌のため、六十六才にて逝去されました。氏は神戸大学大学院修士課程を修了され北海道拓殖銀行勤務を経て、平成元年四月本学助教として就任され、経営情報システム論などを担当される傍ら開学草創期における本学の充実発展に多大な貢献をされました。氏のご功績と遺徳を偲び謹んでご冥福をお祈りいたします。

編 集 後 記

21世紀の幕開けまであともうわずか。20世紀とはどのような世紀だったのか、人類史規模での総括も盛んである。後世の歴史家達は20世紀を大量殺戮の世紀と名づけるのであろうか。古代文明が栄えてから数千年、キリストが十字架上で刑死してから2000年近くなろうとしているのに、人類は今なお国際問題を解決するのに武力を用いている。新年を迎え、せめて21世紀は20世紀とは違う明るい世紀になるという予感くらいは持ちたいものである。情報大も創立十周年という節目の年が過ぎ、これから何かと厳しい時代を迎える。北海道の活性化のためにも「元気のある」大学作りが求められるであろう。これまでの十年間を総括(反省)し、決意を新たにして再出発のスタートラインに立ちたい。(U)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第11号

発行日 平成11年1月1日  
発行 北海道情報大学  
編集 学内報編集委員会